





清盛塔之圖

十三層の石塔
高と二丈六尺

接長矢田辺那共庫真光寺の南より大津國境をわたりて百余年の経
少條五代平貞時石塔を造多と云々

○仁安三年十月乙未の法名淨海
光孝和元年閏二月四日薨年六十四。翌日乃よりしりゆふと
し。遺言は眼は獨原に納むと云く。莫く本朝偏年集成ふと云く。

這稗史このいし宿昔しゆくしやく平相國清盛へいさうくわうせいせい入道都にゅうだうとと福原ふくはらに遷うつりぬるの兵庫ひんぐわうの築嶋きずしまと造立ぞうたてせし夏なつ月つきの
 博士はくし阿倍あへ泰氏たいし並ならば所ところ所ところふよりそ三十さんじゅう人の人柱ひとむしらと立たてて議ぎせしれ小松こまつ内府ないふ重盛じゆうせい遺愛いあい
 の美童みどう松王まつおう小童こどうとよりぬ三十さんじゅう人の命いのち小代こしろ三人さんじん氷底ひやうぞ小沉こしづみ龍神りゆうじん感應くわんおんの徳とく集しゆて
 竟いふ小築島こきずしま落成らつじやうあらし夏なつ蹟あとと記しるす實じつ小義理ぎり深鈔しんしやうの小説せうたなるを復ふく仇しゆの稗史はいしと
 同おなく讀よめよべらば次つぎ
 江戸
 式亭三馬しきていさんば欽曰きんいふ
 〇

江戸

式亭三馬欽曰

蘇養正

伏ふし藥くすり

午

田所町 鶴屋金助發行



文化庚午春
發行

雙鶴堂好利市

荀子兵庫
之筑島
全部
六冊

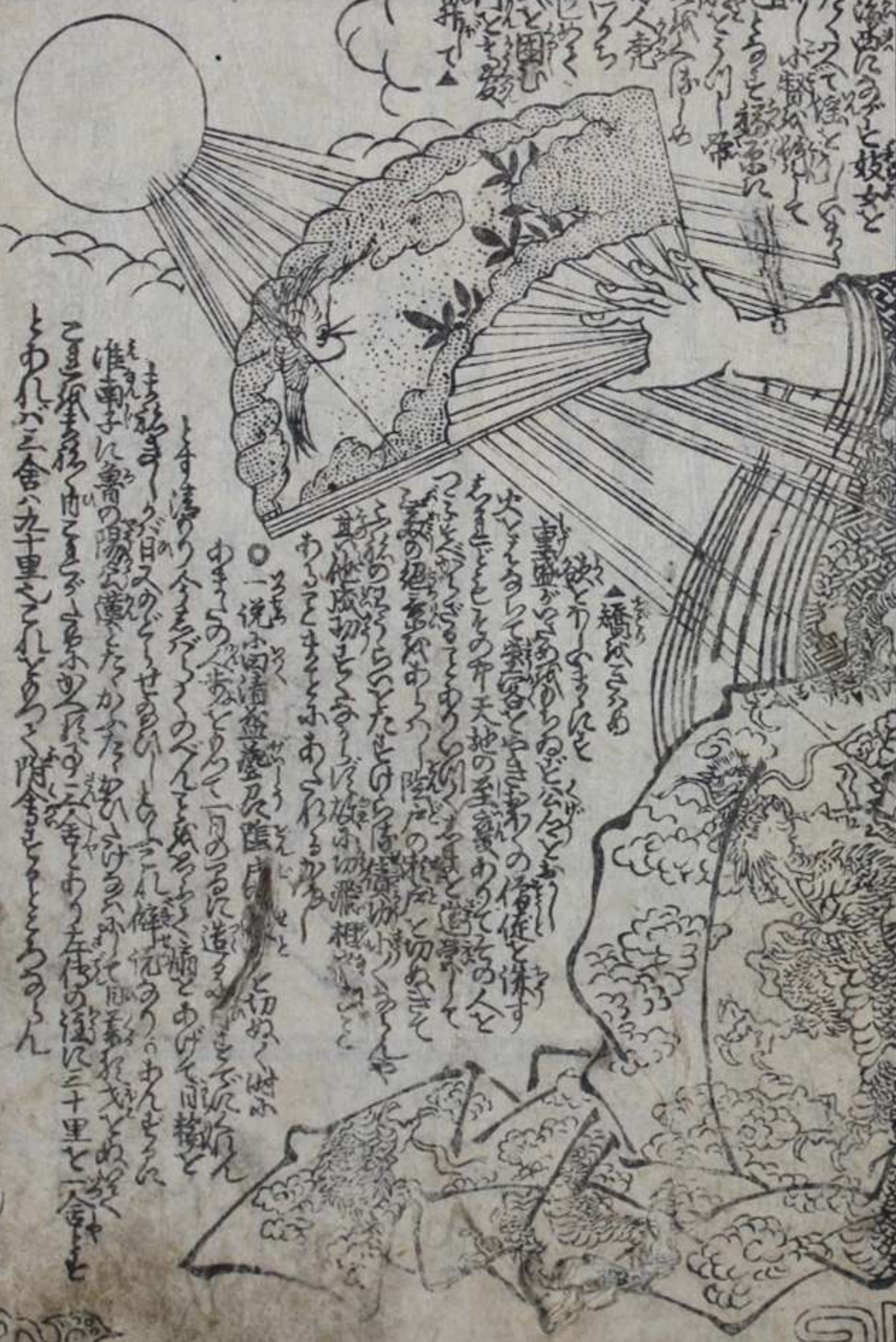
松王丸
明月姬

式亭三馬編
北川美九画





此の山は、
 言と
 氷
 体

[illegible]



飛花
落葉
觀
休

三松長者
今室
花月
御前



丹波國
野瀬庄司
仁和寺
藏人舍兼

今年
丹波國
野瀬庄司
仁和寺
藏人舍兼

今年
丹波國
野瀬庄司
仁和寺
藏人舍兼

舍兼良等
蛭名五郎氏具



三松長者
息女
明
姫



三松長者
息女
明
姫



吉士
誘火

高野山うぐいす堂乃由來
瀧口入道 小松左衛門重盛侍臣左衛門
茂親男 齊藤龍口時頼



建礼門院侍女 横笛 執念黄檗 看も



金剛太郎義門

野瀬 蔵人 金兼 郎等

攝州神崎住人葛葉庄司長清嫡子

近藤七郎

重友

あけぬくれぬと
いつまでもつるん



國と傾け
城の昔雲と
漢武の昔雲と
楚漢の昔雲と
北の雲と
重友の迷友て
發心の因とありぞ
有難き

明月姫と鳴と幽蘭譜と奏と夏巻中より
横笛 幽蘭譜 中古我 日本小傳て公卿専ら奏
のりか室所殿の乱に亡びて今傳て本邦の樂
皆周漢の遺音也隋の代小傳て今唐山小絶なり
故小國朝の中古ハ雅樂盛行て人皆之を以て
國史小詳なり亦拾芥録宋史の日本傳等に見
えり當世の琴曲の屬ハ今ハ琴ハ人の手
古の琴ハ鯖尾琴とて樂に用たり今ハ琴ハ
紫琴とて呼て寛永年間ハ横笛
變て十二組と作り其
及び古樂の支俱に秘説あり
夏なるハもよく贅せ

松王小見石唐樓小
 入て水底に沈む圖
 讀州香川城主
 大井民部太輔嫡男 松王

如意本誓文云我誓願大悲中入
 不成二世願我隨
 虛妄罪過
 中不還
 本覺
 捨大
 悲如
 意輪天
 道化主是則如意珠
 天上勝室也。大梵深遠觀世音氏云

大小石二法華經一萬部ヲ書寫シ三十人ノ柱
 名ヲルシ別ニ沈ノ石ニハ年号月日電神納受
 願下六字ノ名号ヲシルシテ氏ニシヅム

如意輪觀世音衆生濟度の
 ため依て松王小童と化現一
 人の故小童王水底に沈て
 光明精爽とて諸ササ来迎
 のり微妙の音樂天ふひた
 異香自共しと薫トけり
 空中より五色の光化りて
 紫雲平沙にさのりし時に
 不思議や松王が空如意
 輪觀音と現れけり光明
 わりて沈むりと云云

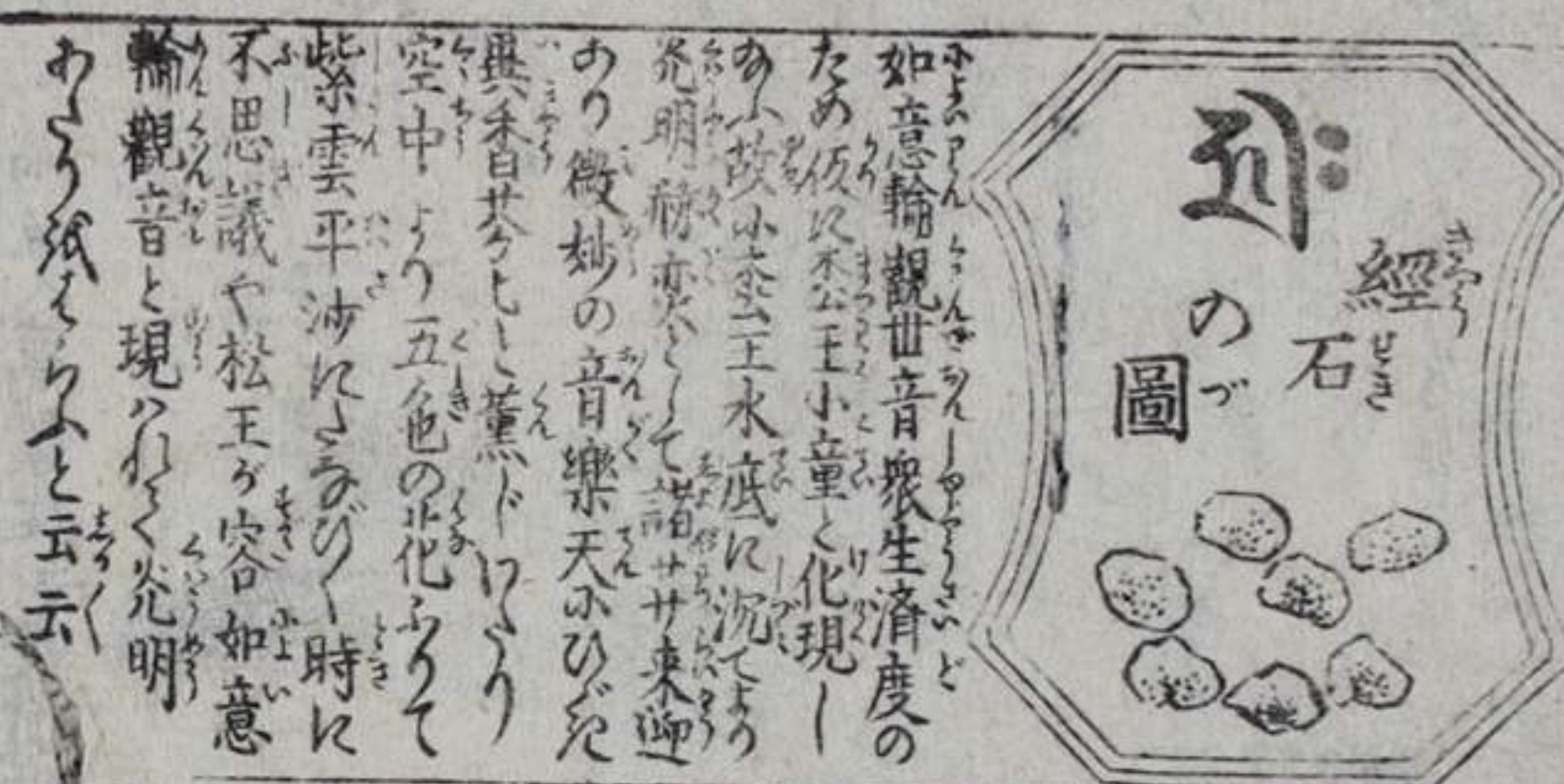
松王小見石唐樓小
 入て水底に沈む圖

讀州香川城主
 大井民部太輔嫡男 松王

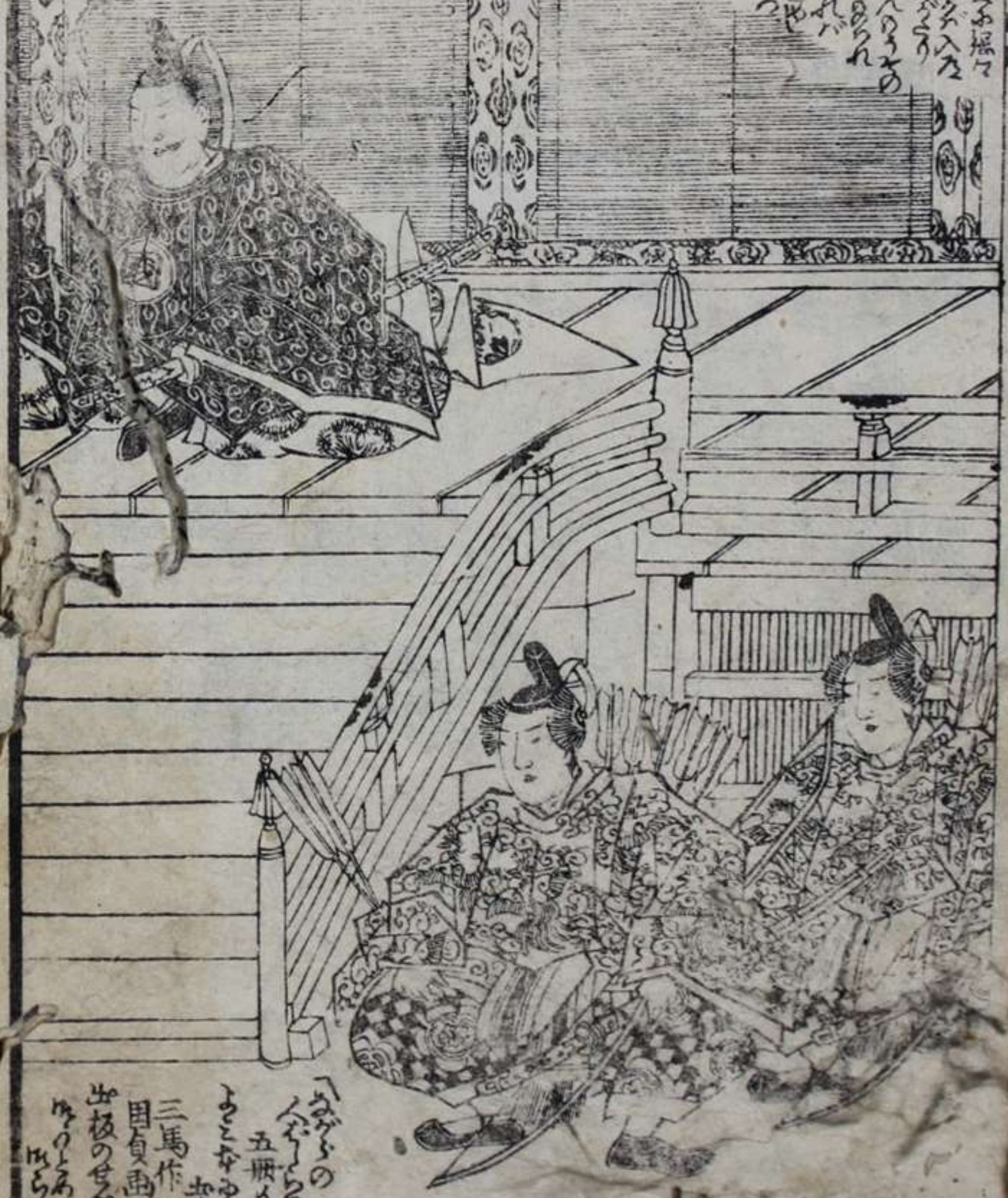
如意本誓文云我誓願大悲中入
 不成二世願我隨
 虛妄罪過
 中不還
 本覺
 捨大
 悲如
 意輪天
 道化主是則如意珠
 天上勝室也。大梵深遠觀世音氏云

大小石二法華經一萬部ヲ書寫シ三十人ノ柱
 名ヲルシ別ニ沈ノ石ニハ年号月日電神納受
 願下六字ノ名号ヲシルシテ氏ニシヅム

如意輪觀世音衆生濟度の
 ため依て松王小童と化現一
 人の故小童王水底に沈て
 光明精爽とて諸ササ来迎
 のり微妙の音樂天ふひた
 異香自共しと薫トけり
 空中より五色の光化りて
 紫雲平沙にさのりし時に
 不思議や松王が空如意
 輪觀音と現れけり光明
 わりて沈むりと云云



ありのまゝ
 ざうざうと
 入りあが
 兼平の如
 平あしう
 ずうとと
 八代をた
 らひあり
 のまゝ
 那まゝ
 して
 まつた
 おとあ
 こゝの
 なるま
 ちては
 さらひ
 ちん
 五せ
 いち
 まゝ
 ねが
 ちん

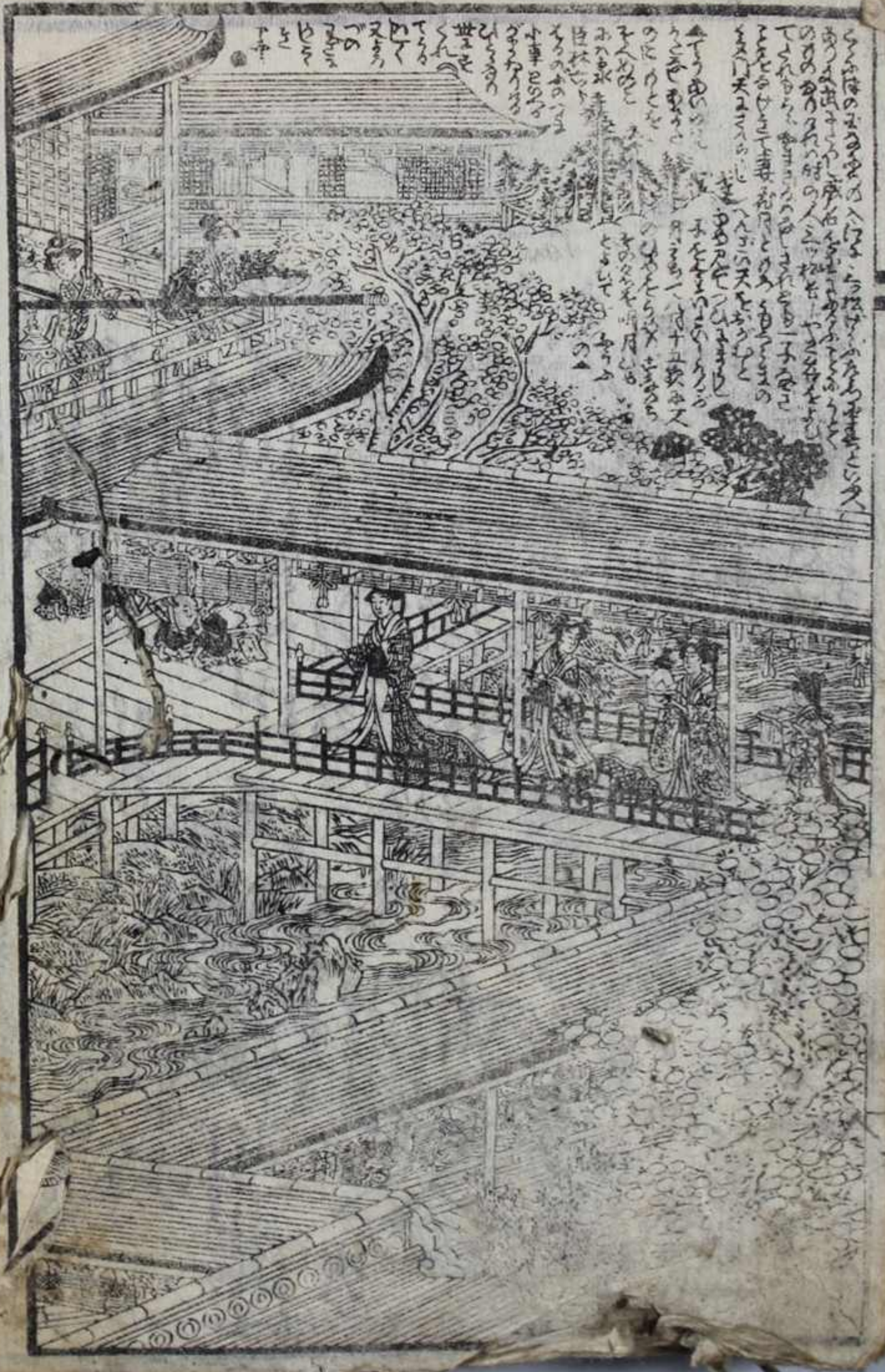


「お金の
ふりかへ
五冊の
よきな
三馬作
田負田
出板のせり
ものよ
はらへ

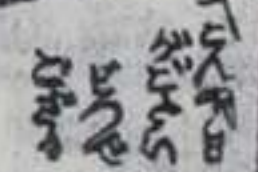
[illegible]

新園
人柱

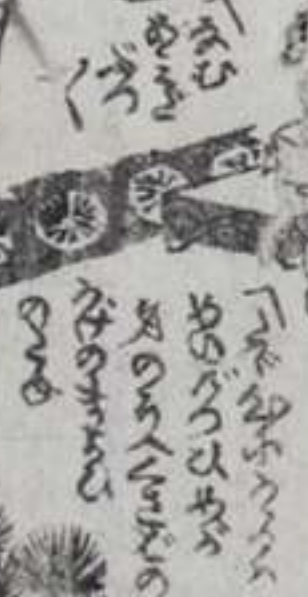




[illegible]



如來院の肉は
紅きとや
國春のつるも
國春めりと
公



とやうのあつてゐるやうにとあらはれぬものぞ
せんかきこころ父のかたのみうちむくひをいれたのちのちみ
まればもあんまりいふまはらうその傍とより此のあけす
さへなくともこのうらなひとどろきやめありときりあつぜん

巖松高聳て
 嵐 妄想の夢を破り、
 流水清流す
 浪塵埃の垢を滌ぐ
 かく
 なるを
 霊跡あるが
 これもこれより
 高野山へ乞山
 そのち 諸國を
 ちのまゝせんアおひ
 ちのせが 花を落す
 あつれそつき世の中
 小ナ丁

[illegible]

卷之四

そのく 瀧は入るがわつあんののつれをなげぬる中時とたひまのとう左馬の茂頼が手の
 さいとう瀧は附衆とて小松の内府をげりりの侍長より十とのとに本更
 をあさりけんれい門底のこーりとあよこぶあしひふあありらまねつさうのいり
 ぐたきさぐらあさかざらざらりる父茂頼これをきてたまふいり
 ありあきかをおりひそめてあまのをめのをうりありんとて
 たびくよひよせいはあなるたまごもおりひりあかるゆめ
 まがうーの世の中ひあきまのをつまごしひきそめ
 俗のたのみみひ又おもひりきりのをはずとせん
 それが父のおあせをそむくおにのりこれよま
 せんちききき世をいひまそとのこちま
 のどーとて生年十九才あま
 るとてあまふひまの性生院
 わかこるひきましてわたりなり
 つきのあのかく
 よこぶあかくとてきよりゆ
 うらめまひあるまれわ
 かくとていせうのどきあをう
 まふひのうまじまよたとひ
 あまのけのあまのりしもたづ
 あてういんをひそりわにそ
 二以をつれてまをそちのひ出
 まうのうへとてうーあまごう
 それとてあがれがてまかして
 まをひひたづのうらそ
 むばんあるまあれさあふあ
 ねんあつのとあまこえなれがたまに
 う声とことりてにこをりてのせう
 けそこのかりてあまをひと目え
 まあふてこれまふあふていんと
 ありなれに瀧に入るとあふちまふてあまはて
 つまへ

[illegible]

[illegible][illegible]

「そのまゝだういふに」
 りともあざゆと
 まゝとのまぢは
 りのぞくれま
 とありなればこゝろあ
 けり
 「そのまゝいふゆゑに」といふ

あつさく
ひまごふ
かた
とら
のほろ
つら
のほろ
のとま
ふし

あまの戸の
はらうのまらふ
うをこちびけ
とよこのにつひもそつあやふ
ふたり生年クククオサセオ
や樹に入るこのせをきこ
いまくふくおこまひまぬて
かきうられ人々もあきあき
なりあきあきあきあきあき
かやひぢのとまじりたる

ちんちんかのもこふちんねんちのまうちん
 滝にをちちてうちんちとありてゆめり
 ふちんちんちのちりちんちのちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

[illegible]

うもせうひ君をうやむいてこめ
 事なりしれうう人ー肉あひまわふ
 せんともやもあめあひまわふ
 山へのおうとさふげうう死
 雲とありねれバありてまう
 うれーよとあわくにてわう
 一ーものうーやまや君を
 げのう高の山あひまわふ
 のたふとこそすれとよ
 今うあひわくこふ
 以上の中さふあひまわ
 るいのあをうてはあふ
 うまううついでんをうて
 たふさふくといふうと
 受バあひまわふあひまわ
 たりうまのうとあひまわ
 をうあひまわのあひまわ
 さんかりてこそあひまわ
 入る
 うう

[illegible]

人々を以てけしきとて人々を以て

曲とておわまらぬ 幽紫標の孔子 橋のより久くせしふとて空谷の即ち遺
 かんをまじらうじくきりしをあらぬは後にてくくるいふは遺
 る比し香りを王者にたとふ幽負のこころをいふとてよのつひの遺
 卓著なる幽草かれどもかく空谷あるとて人の心をあらわす
 のれざるをいふとてくくるをあらわすきまふとては

● ちね国まゐるをもいふことの
 うんぞく人びとの中からいふ
 一とふまじり
 もくろのくそ
 くのたのま
 ゆおはきさの
 上とありぬる
 かねん入のうたよ
 へんともまじり
 へんぞくをいふ
 へんぞくをいふ
 へんぞくをいふ

「白きられ
 とびのち
 まじり
 一たの
 中とて

にすん

A black and white woodblock print illustration of a man in a kimono and hakama, holding a sword, standing in a room with a patterned floor and a decorative screen. The man is depicted in a dynamic pose, possibly dancing or performing a ritual. He wears a dark kimono over a patterned hakama. A sword is tucked into his belt. The background features a large screen with a butterfly motif and a floor with a complex geometric pattern. The overall style is characteristic of Edo-period Japanese art.



卷之五

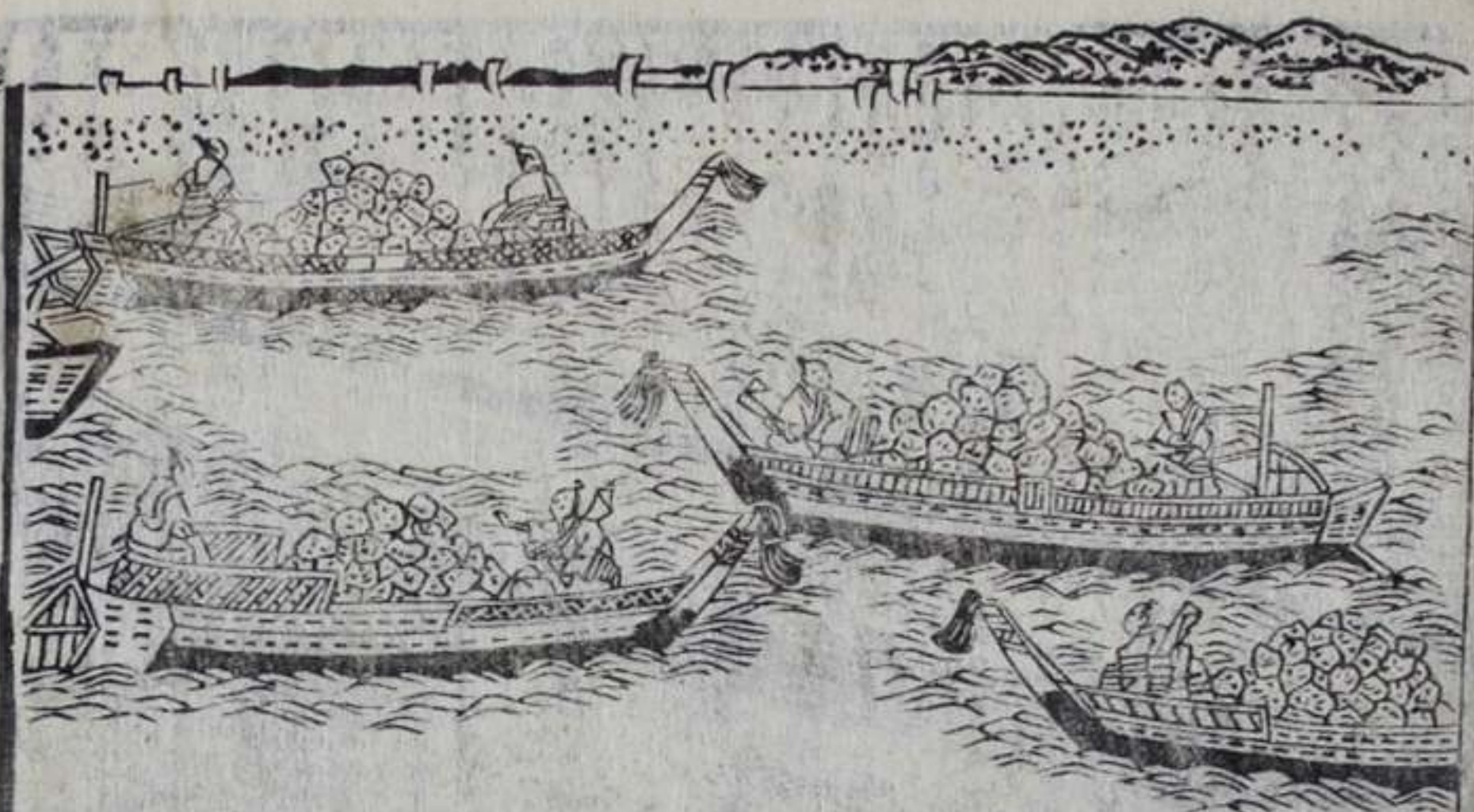
[illegible]

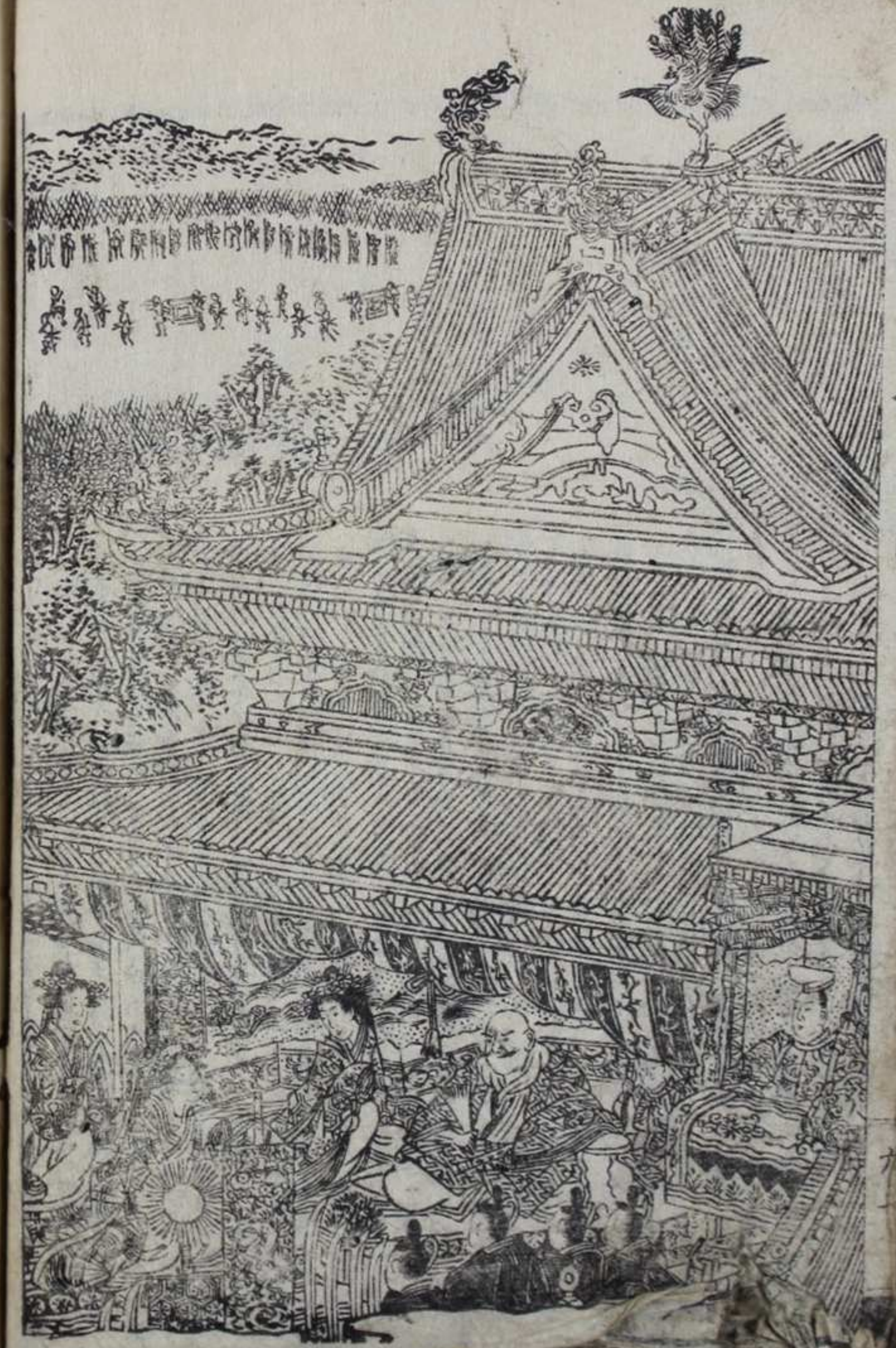
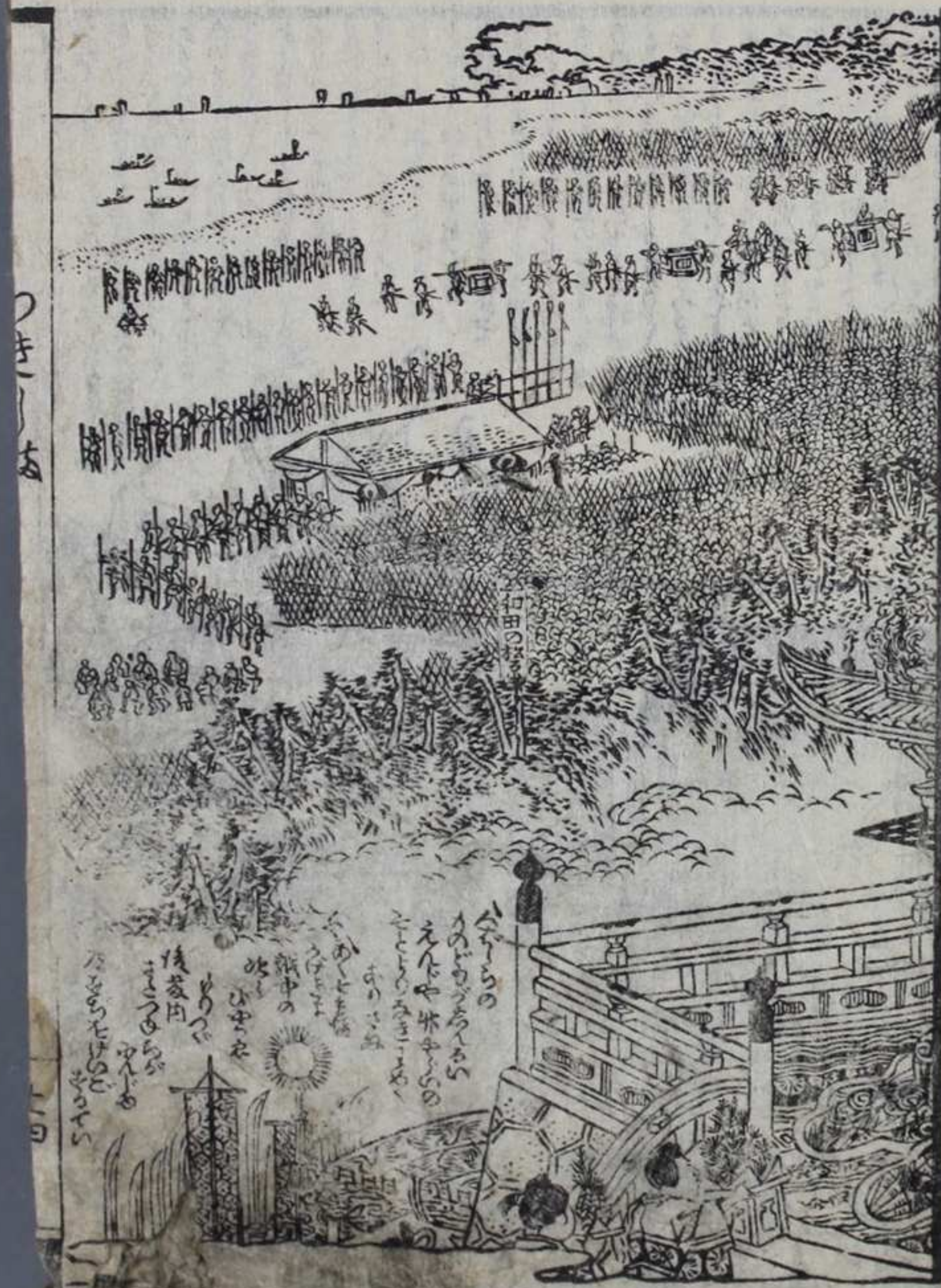
わが父の
おとこを
いふまゝに
つてはれそ
入てあつち
いふまゝに
さういひ入てぞ
かひかる
つたは
にあられ
ものねむい
うらやましき
ことなりがふつたのもも
そつとひやをさぐりど
入れたるは
うらやましき
あひもつた
明後十八日
うらやましきを
まづろくべきのしやう
いふまゝに
えんだりの人をもつて
ねがいめが困つたも
ころのなつかしきこりば
アさんとなりけりありき
とてやまよき人へのり

[illegible]

ちんろき馬を
やうぜんじてあつりぢ
いとかうまのひんか
ら父母ふくらまけぬの
とてあけびかりよまのチカラ
人ぞとくより下をかりめてよういせう



[illegible][illegible]



[illegible][illegible]

A black and white woodblock print illustration from a Japanese book. It depicts a large, seated Buddhist figure, likely Amida Buddha, wearing ornate robes and holding a lotus flower. To the left, a woman in traditional courtly dress stands behind a railing, looking towards the Buddha. The background shows stylized clouds and mountains. Below the illustration is a line of handwritten Japanese text.

[illegible]

[illegible]

上ノ下ノ目

ことし不慮保二年七月
 十二日八つまであつた
 とて狂言をよめつと
 けふのうらなをたて
 なるうて用ゐるもの
 ありのやまをあらわ
 するものなり
 早天よりかくあして白き衣を
 ちやいあらねひつれをきそあら
 石のひつあふる人なほはるる
 ありのうらなをたて
 なるうて用ゐるもの
 ありのやまをあらわ
 するものなり



百五のうらなを
 ことし不慮保二年七月
 十二日八つまであつた
 とて狂言をよめつと
 けふのうらなをたて
 なるうて用ゐるもの
 ありのやまをあらわ
 するものなり



ことし不慮保二年七月
 十二日八つまであつた
 とて狂言をよめつと
 けふのうらなをたて
 なるうて用ゐるもの
 ありのやまをあらわ
 するものなり



山崎の陣
 寺と多つて
 ろのらひやう
 れを
 土入水の
 らあは
 やを
 ゐ
 のこり
 らう
 せまひ
 けをけす
 ゑふ又
 らり
 のあま
 のせん
 けい
 作の

西国マウラ
 のふ風波
 のうんそ
 のがれ
 ようふ
 ながのほ

其のれちと松入道は享永四年
 二月十五日卯より辰まで大日
 大日あつたのゆゑのつげありし
 こととてその日にいふといひ
 のよりて後あるとて大さう生
 るとていふなる今ふいふとそ
 きうせき海の小阿辺のとなり
 溪村光明寺といふ大日堂あり
 因まふふぬのそりあまふた
 野原の内あり因まふたの
 今ふ七松村の宮のい内となり
 松入ふふぬふふふ永年中
 記ふ今ふ田尻村と柏木村とふ
 中あり松入明月のふ相ふて
 又明月のせきとて光明寺宮の
 ちを居のふとあり又あまふた
 海老寺ふふありといふ田尻ふ
 ありのやと氏ふせきふあり
 松王とていふふありふふ
 やふたふたといふふふふ
 松人ふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふ

三馬作
 北川姓改
 十八歳
 小川美九画



文七庚午春新版

繪入流轉
 讀本數回
 阿古義物語全部
 八卷

式亭三馬編
 歌川豐國画
 歌川國貞画

土佐節の二河白道
 豐後節の高尾懺悔
 却説浮世之助話
 全式亭三馬作
 冊歌川國貞画

ひびく
 甚五郎
 腕離一心命
 全三冊
 式亭三馬作
 歌川國貞画

案王姫
 答語兵庫之築嶋
 全六冊
 式亭三馬作
 冊小川美九画

純子三本
 紅絹五疋
 貝花街始
 合本三卷
 式亭三馬作
 歌川國貞画

右のて原出板賣出
 江戶所町
 鶴屋金助板

文七庚午歲新梓

女夫池かたういけ時代摸樣室町織しやうし合本あひほん感和亭鬼武作かんとくゑぶさく

三嶋娼化粧水莖さんしまうけすいじよう合本あひほん三冊さんさふ蹄齋北馬画ていさいきたまゐ

滑稽音江島土産くわきおんえしまいづか全一卷ぜんいっくわん十返舎一九作じふたんしゃいちゅうさく

おなな〜二篇おなな〜にへん全二冊ぜんにさふ十返舎一九作じふたんしゃいちゅうさく

串戲くわし六あ〜詣むさで全三冊ぜんさんさふ十返舎一九作じふたんしゃいちゅうさく

近刻きんこく

今の洗濯物の長家等乃一ツツ文屋と云ふはよきものなり
姫と云ふは通連のれは姑父むさうは頼りあり軟に女買ふつと
道とそれ子に後生一はふまうとてやう牛い〜はれ馬ハ馬連
乃れ〜と云ふらきと

田所町はるや金助板

北佐郡山姥本所

茅草子多紀

山姥

信小
町屋

国文
24L
43

信
小
菱
屋
中